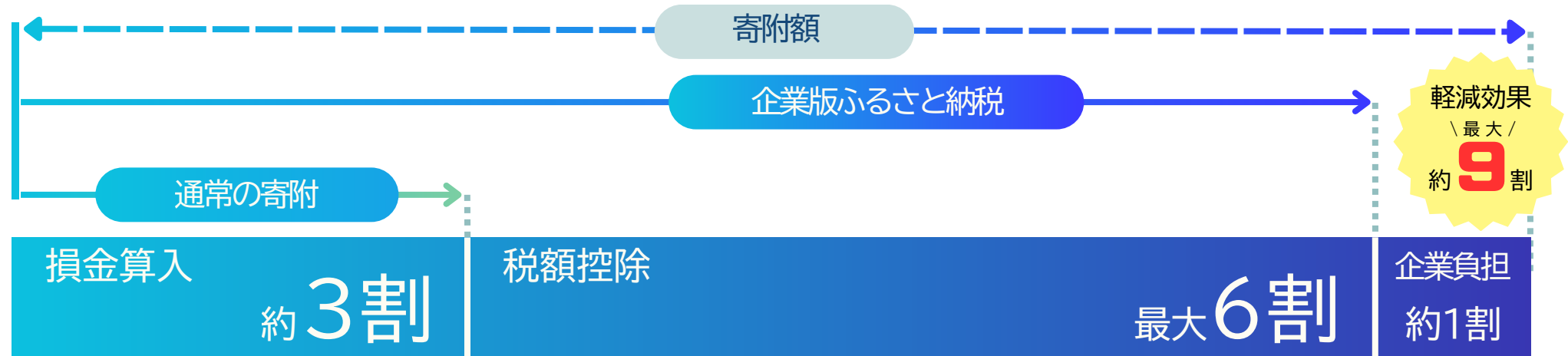


企業版ふるさと納税とは

制度の概要

企業の皆様が、泉大津市の地方創生プロジェクトに対して寄附を行った場合に、法人関係税から税額の控除を受けられる制度です。通常の地方公共団体への寄附における損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、税額控除(寄附額の最大6割)により、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が寄附額の約1割まで圧縮されます。



例 1,000万円寄附すると、最大約900万円の法人関係税が軽減

- ①法人住民税 寄附額の4割を税額控除 (法人住民税法人税割額の20%が上限)
- ②法人税 法人住民税で4割に達しない場合、その残額を税額控除 ※ただし、寄附額の1割が限度 (法人税額の5%が上限)
- ③法人事業税 寄附額の2割を税額控除 (法人住民税法人税割額)

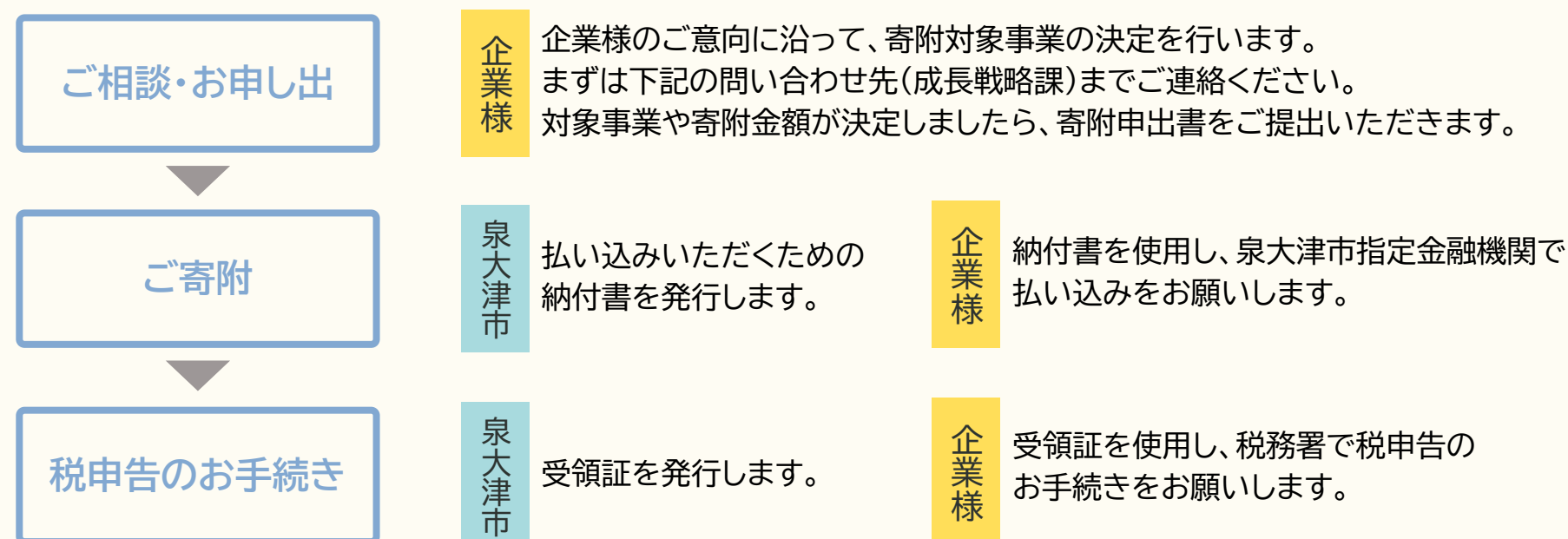
留意事項

- ◆本制度を活用して泉大津市へ寄附ができるのは、泉大津市以外に本社がある企業です。
- ◆1回当たり10万円以上の寄附が対象です。
- ◆寄附を行うことの代償として経済的な利益を受けることは禁止されています。

税額控除の手続(申告)や算出に関しては、税理士や所管する税務署へご相談ください。

活用する メリット ①寄附額の最大約9割の軽減効果を活用しながら、地方創生を応援できます！
②社会貢献や企業のPRをはじめとする事業展開に繋がります！

寄附の流れ



寄付特典

- 泉大津市では寄附金額に応じて、様々な特典をご用意しています。
- 10万円以上のご寄附**
 - ・感謝状の贈呈(郵送)
 - ・本市HPへの掲載
 - 100万円以上のご寄附**
 - ・感謝状贈呈式の開催
 - ・本市HP・広報紙への掲載
 - ・報道機関に情報提供

事業詳細は
本市HPを
ご覧ください！



泉大津市ってどんなまち？

企業・大学との包括連携協定数 第1位 住み続けたいと思う市民の割合 86.2%
※2024.9「大阪府・市町村公民連携推進協議会調べ」 ※2024.5「泉大津市総合計画に関する市民アンケート調査調べ」



市民一人ひとりの能力・技量・才能を最大限発揮できるまち「アビリティタウン」を目指しています。民間企業などが持つ先進的な技術やノウハウを活用した実証実験を市のフィールドで展開し、泉大津市から「0→1」で全国共通の社会課題解決モデルを創出しています。是非、一緒に“未来のあたりまえ”をつくりましょう！

問い合わせ先

泉大津市
市長公室成長戦略課

〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号
TEL/0725-33-1131 FAX/0725-21-0412
E-mail/senryaku@city.izumiotsu.osaka.jp



“新しいもの”を取り入れて、“チャレンジ”を続ける泉大津市で、一緒に“未来のあたりまえ”をつくりましょう！

泉大津市長 南出賢一



官民連携・市民共創で
泉大津市の“新しい”をつくる
2025年度

泉大津市 企業版 ふるさと納税





寄附対象プロジェクトの一例をご紹介します！

～暮らしの中に1つでも多くの笑顔～

「あたらしい」があるらしい 泉大津市/

泉大津市では、変化の激しい社会情勢に対応し、予測不能な時代においても、その流れを的確に予測しながら、市民の「生命インフラ」を守り、市民の「暮らし」を豊かにするため、「健康」「環境」「教育」分野を軸に、社会課題解決に寄与する“あたらしい”社会価値を創出し、市民の暮らしの中に1つでも多くの笑顔が生まれるまちづくりを進めています。

PICK UP



NEW

万博

見て・知って・感じる「いずみおおつの未来」

いずみおおつ “まちなか万博”

市全体を万博のサテライト会場と見立てて、市民や市内で活動している団体等のみなさんと一緒にまちのいたるところでイベントを実施する「いずみおおつ“まちなか万博”」を開催します。この取り組みを通じて、地域のにぎわいづくりや交流人口の増加を図り、万博後のまちのさらなる発展につなげます。



健康

泉大津市独自/ あしゆびプロジェクト



足は全身を支える土台であり、足を正しい状態に整えることは、生涯健康な体を維持するために重要です。幼児から高齢者まですべてのライフステージで、幅広くあしゆび・体幹を鍛えるプロジェクトを実施しています。

健康

泉大津市独自/ 泉大津版未病予防健診



従来の健診に、腸内環境検査や女性の更年期対策に着目したエクオール検査を独自に追加した「泉大津版未病予防健診」を開始。未病状態を早期に把握することで、主体的な健康づくりに取り組み、更なるQOLの向上を目指します。

健康

最先端/ “認知症”予防・改善



東京大学先端科学技術研究センターと連携し、認知症予防に効果的な肩関節や腕を大きく使う動作と、足関節をしっかり使ったステップで重心移動を取り入れたオリジナルダンスを開発。高齢者の認知機能改善と身体機能向上に向けて取り組んでいます。

環境

みどり溢れるまちづくり



大阪・関西万博を機に「シーパspark」に植樹を行うとともに、公園の再整備や地域における緑化推進のための報奨金交付など、山のない泉大津市が100年先も魅力あるまちであるために、木々を大切に育み、守ります。

教育

読書環境向上



年間40万人が訪れる市立図書館「シープラ」内にバイオフィリックデザインを導入。音響・植物・香りなどにより読書空間に豊かな自然の環境を再現し、館内で過ごす方のパフォーマンス向上や都市ストレス軽減を図っています。

防災

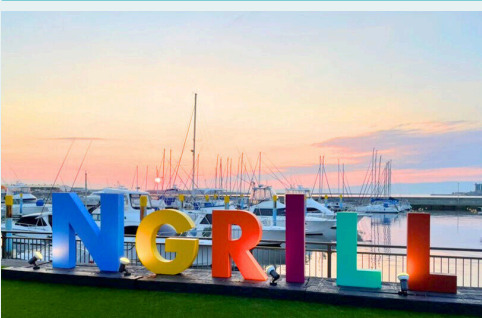
“もしも”の時も、安心を。



水循環型シャワーや、手すり付き自動ラップ式トイレを整備。また、妊産婦家族対象のホテル避難制度も導入し、避難所のQOL向上を図っています。また、多言語表記の避難誘導標識や、電話・FAXによる情報配信の仕組みを通じて、すべての市民に正確な情報を届けます。

観光

ウォーターフロント開発



港湾エリアにおいて、海釣りやキャンプ、水質改善、グランピングBBQ施設の設置など、官民連携による様々な実証実験を実施。2025年には泉大津旧港エリアで船舶を用いた社会実証実験を行うなど、新たな観光コンテンツやにぎわいづくりの拠点の創出に取り組んでいます。

地域

起業・創業支援



泉大津市への移住・定住促進と地域の活力創出を図るため、市内で起業・創業する人に対してワンストップ相談窓口の設置、家賃や設備などの費用を最大100万円 支援するなど、企業・創業しやすいまちに向けた取り組みを進めています。

「第2期泉大津市まち・ひと・しごと創生推進計画」に位置づくすべてのプロジェクトが対象です。記載している事業例のほか、応援したい事業の相談も行っていますので、まずはお気軽にご連絡ください。

食育

泉大津発/

日本の農業を守る『食』のサプライチェーン改革

泉大津市独自の サプライチェーン

食料の生産地と消費地の共存共生の考えに立ち、全国各地の生産地と連携。互いの課題を補完する関係を構築し、取り組みを展開することで、日本の農業復興に貢献しています。



生産地

- ・販路拡大
- ・農家の収入が安定化
- ・遊休地の活用

連携



消費地

- ・安定的な食糧の確保
- ・安全安心な食糧の提供
- ・食育の推進



子育て

全国初/ マタニティ応援プロジェクト



妊娠届提出の翌月から出産予定月まで、毎月10kgの栄養価の高いお米“金芽米”をプレゼントする「マタニティ応援プロジェクト」を実施し、子育て世帯を支援しています。

536名の妊婦にプレゼント！（2024年度）

「マタニティ応援プロジェクトで金芽米を食べた妊婦の声」

- ・健康に気をかけてくださるプロジェクトにとても嬉しく感謝しました！
- ・金芽米は無洗米のため洗わなくて良く、栄養価も高いので妊婦の時に食べられてよかったです！
- ・お米も高騰しているので大変助かりました！



NEW

食育

市民参加型/ 農業体験プログラム



農業連携地域交流プログラム

市内の子どもたちが農業連携先へ訪問し、普段できない農業体験など健全な育成に繋がる地域間交流活動を通じた原体験機会を創出しています。また、子どもが自ら市の魅力を発信し、他地域との交流から学ぶことによる市民としてのシビックプライドの醸成を目指しています。

まちなか体験水田・体験農業

市内の身近な場所で農業とふれあえる「まちなか体験水田」やさつまいも掘りができる「体験農園」などを通じて、自然や食の大切さを実感できるプロジェクトを実施。地域や市内農業者と連携しながら、都市と農のつながりを深める体験型プロジェクトを展開します。

こども

泉大津市独自/ オーガニック給食



市内全ての公立認定こども園・保育所・小中学校の給食で、連携先の地域で生産した有機米などを使用。発酵食品や有機食材、旬の食材を積極的に取り入れ、体に良い特別な給食を提供しています。

「給食を食べているこどもたちの声」

- ・いつも食べてるお米より甘くてもちもちおいしい！
- ・ときめき給食の日を楽しみにしてる！



日本初チャレンジ/

「コメ」の安定生産・安定消費を実現/ 『コメサミット』設立



日本人の主食である「コメ」を起点として日本の食料問題の本質に向き合い、「生産地」と「消費地」をつなぐ新たな自治体間ネットワークの構築を目指す全国的な試みとして2026年の「コメがつなぐ自治体間農業連携首長会議（通称：コメサミット）」の設立を予定。「コメ」を起点とした新たな食と農の連携モデルを提言・実践していきます。

2025年の活動

同サミットの設立の第一歩として、全国16自治体が泉大津市に集結し、生産地・消費地の役割や今後の方向性を議論する「首長会議」を実施。また、全国的な機運醸成に繋げるため、市民公開シンポジウムを行いました。

